

4度目の正直！？リージョナル初優勝 アマ新鋭 両手投げ 塚田侑希(JBC)

PBA REGIONAL TOUR in JAPAN TOUR STOP2 決勝トーナメント

順位	選手名	スコア
1	斎藤有作	228
7	高坂麻衣	197
10	相田祐樹	239
5	川崎未来	164
12	塚田侑希	223
4	鶴見亮吾	191
3	近藤雄太	209
6	三浦啓寛	237
11	中山洋一	179
8	新畑雄飛	268
9	稲葉貴久	259
2	工藤貴志	222

優勝
塚田侑希




準決勝12位と最後尾で決勝トーナメントに勝ち上がった塚田侑希。ここから彼の快進撃は始まる。一回戦は川崎未来(JBC)、二回戦は第四シードの鶴見亮吾(JBC)、準決勝では第一シードのベテラン斎藤有作(JBC)をも撃破。ついに決勝、三浦啓寛(JPBA)との対戦まで上り詰めた。一方の三浦も、準決勝6位からトーナメント進出。一回戦は中山洋一(JPBA)、二回戦は近藤雄太(JBC)、三回戦工藤貴志(JPBA)と、いずれも210以上upで危なげなく勝ち進んだ。さあプロ対アマの決勝戦だ。

前半戦は1フレームオープンでワンマーク差をつけられる。一方の三浦は、内を絞りに安定した投球でリード。その後、同じようなスコアメイクで後半に進んだ。しかし9フレ、よもや三浦失投、内しぼりがわずかに甘く痛恨の②⑩のスプリット。逆に塚田がスペアで5ピンのリード、10フレ勝負に。先投げの三浦はダブルを持ってきて逆転を信じる。しかし、ここ2年めきめき実力をつけてきた塚田は、三浦のストライクを見ても慌てず落ち着いて投球。渾身のダブルを持ってきて優勝を決めた。222対217。「10フレ最後まで分からない展開で、三浦プロが怖かった。すごく緊張しました」と安堵の笑顔で答える。塚田は、このリージョナル前にプロアマ北海道オープンを優勝。そのままの勢いでこのスコープイオン・オープンに乗り込んできた。北海道オープンの決勝でも対戦相手はJPBAのプロ。再びプロとの対決だった。2年前のリージョナルの初挑戦は、予選落ち。2回目の挑戦は6位入賞。3回目は4位、そして4回目、ついに優勝の金字塔。空恐ろしい19歳だ。



2位:三浦啓寛



ベスト3

3位の新畑雄飛(JBC)は前回のスコープイオンの覇者。2連覇が期待されたが惜しくも決勝トーナメント3回戦で敗退。一方、予選Aシフト予選落ち、悔しくて空があるBシフトにも急ぎょエントリー。「これで落ちたら来週のジャパンオープンには参加しない」と公言していた、滋賀から初参加の近藤雄太(JBC)。そのBシフトで予選をクリア。準決勝ではパーフェクトを達成、賞金5万円を獲得。見事3位で決勝トーナメント進出、シード選手となって活躍した。今回の大会には、北は北海道、南は沖縄から日本全国から出場の選手がいた。さらに20名以上のボウラーが初挑戦。フレッシュな大会になった。今年も全国26センターで行われているアニマルリーグ上位者36名を優先エントリーに指名。総勢96名で予選が行われた。その内12名のプロボウラーが参戦。女性ボウラーも12名が挑戦。唯一決勝トーナメント進出は高坂麻衣(PBA)だった。また予選通過ボーダーラインは186だった。